

futbol y vida



Poco a poco ...
Poco a poco ...

冬の鍛錬期を経験せずに春を迎える…
いつまで我慢をすればいいのか？

“ 冬来たりなば春遠からじ ”

今年は冬の“鍛錬期”を未経験… 春に向けてしっかり準備をしよう!!

「二月は逃げ月」と言いますが、立春が過ぎて気が付けば今週の日曜日（21日）は都立高校の入試があり、一週間後にはカレンダーは三月になります。春はもうそこまで来ていますね。

ご存知のように、関東地方一都三県に出された緊急事態宣言は、一か月間の延長となりましたが、学校の方は、時差登校ではありますがようやくクラスのメンバーが揃って通常の形式で授業が行われるようになりました。一方部活動は、私立の高校は少しずつ活動を始め、東京近県の公立高校では通常または条件付きで活動を再開していると聞きます。現在、都立高校はリモート形式や自主トレーニングは認められているものの、東京都の方からは今後の指針や見通しが全く示されずに二か月近くが経過します。いつになったら都立高校は活動が解除され、グラウンドで思いっきりボールを蹴れる日が来るのでしょうか？

現在もサッカー部では、この二か月間の週末を利用してZOOMを使ったトレーニングや、放課後近所の公園に自主的に集まり、コーチのトレーニングメニューを行って、どうにかフィジカル面をキープできるよう工夫しています。また、先日、八王子市戸吹町の人工芝グラウンドを提供していただき、本校だけではなく、声を掛けた前任校やサッカー少年たち有志が四十人くらい集まりボールを蹴る機会を得ました。この日は、絶好のサッカー日和で、二時間という短い時間でしたが楽しそうにボールを追いかけました。どこの子どもたちも想いは同じ。思いっきりグラウンドでサッカーをやりたいのです。これこそが、本来の健全なあるべき姿ですね。



<想いは同じ!!グラウンドでサッカーをしたい>

合格した中学生も意欲的にトレーニングに参加!!

2月2日（火）、推薦入試の合格発表（HPで発表という次世代型？）があり、合格した六名が手続き後、早速、挨拶に訪れてサッカー部入部の意思を表明しました。今年度は例年になく**4.25倍**という高倍率でそこを通過した精鋭たちです「**片倉高校サッカー部で三年間真剣にやりたい!!**」という強い意志を持った生徒たちだけにスタッフ一同とても楽しみであり、期待しています。早速、週末のトレーニングに意欲的に参加し、高校サッカーに慣れているところです。上級生たちにもいい刺激になればいいと思っています。

尚、今回残念な結果になった生徒たちもたくさん再チャレンジしてくれています。2月21日の入試でいい結果を期待しています。 **見せてやれ底力!!**

子どもたちの一度離れた“心”は戻らない…

今年度二度目の緊急事態宣言が1月9日（土）に出されて早二か月、全国高校サッカー選手権決勝戦以降、東京都に関しては、高体連主催の大会も活動もストップしています。試験一週間前に部活動禁止という決まりのある学校は多いと思いますが、試験明けのトレーニングはこちらも気を遣うものです。この期間に積み上げてきたフィジカル面を落とさないように、各自で自主トレーニングしておくようメニューを与え指示を出し維持させます。それでも、コンディションを戻すには時間が掛かります。それが、二か月以上続きしかも三月からは公式戦も入ってきます。準備不足が否めない中で行われれば大きな怪我に繋がることも心配です。

また、その影響からか、ここに来てとても残念な情報が入っています。近隣の学校では部活動自粛期間中に部を辞めていく生徒（特に新三年生）が増えているようです。先の見えないこの状況下ではモチベーションの維持ができないとのこと。しかも今年度二回目となれば仕方ないのかもしれませんが、“一度折れてしまい、離れてしまった子どもの心は元には戻れません。”新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策として、「部活動停止!!」という判断だけでは余りにも安直過ぎます。東京近県のような創意工夫で活動を確保することが必要だと思います。子どもたちにとってたった一度の高校生活で打ち込めるものを失うということは大変残酷です。

私も、赴任して六月の再開時に二年生が半分以上辞めたことに対して、「志しが無い連中だな」と正直思いました。しかし全てがそうではなかったのです。昨年三月から三か月半もの間、当たり前にあった日常からサッカーが奪われれば子どもたちの心が離れることは十分考えられます。

“冬来たりなば春遠からじ” ということわざがあります。

「つらい時期を耐え抜けば、その先にある希望、幸せな時期は必ず来る。」という意味です。

二度目の今回は、授業はあるけれど特別活動や部活動は自粛と。しかも、東京都からは見通しも方向性も全く示されず、こちらは只々見えない出口を黙って待つばかり…。春（希望）が見えなければ、子どもたちの体力・気力・精神力は維持できず、精神衛生上全く良くありません。そんなことは誰でも分かります。学校は、勉強をする場ではありますがそれだけではありません。部活動や学校行事を通して学ぶこともたくさんありその両輪がバランス良く育って前へ進んでいくことを作る場でもあります。子どもたちが潰れないように一刻も早い活動再開を切望します。



<子どもたちの笑顔、そして、やりたい気持ちを絶やしてはいけない!!>